

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成20年1月

(平成19年12月末調査)

平成20年1月17日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫
経営相談室

<http://www.suwashinkin.co.jp>

TEL 0266(23)4567

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【11月】	諏訪公共職業安定所管内	1.22倍	+0.01ポイント	
	岡谷公共職業安定所管内	1.49倍	△0.35ポイント	
手形交換高【12月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	9,465枚	△1,455枚	
	金 額	12,239百万円	△2,357百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	1枚	△1枚
		金 額	5,000千円	+4,590千円
車庫証明取扱件数【12月】(諏訪・岡谷自動車協会管内)		888件	△12.4%	
新設住宅着工件数【19年4月～11月】(諏訪管内)		1,091戸	△305戸	

地域の概況

●製造業

自動車部品は、コストダウン要請が続くものの受注は総じて安定しており、センサーなどの専用機の受注が増えるなど自動車関連下請企業の受注は堅調となっている。工作機械は自動車・OA機器部品加工機など安定した受注となっているが、汎用機械の受注は依然弱含みとなっている。半導体関連の受注は弱含みとなっているが、液晶関連下請企業に受注が増加した企業がみられる。一眼レフ鏡枠加工は引き続き好調な受注が続いているが、電気機器、携帯電話部品の受注は企業により区々となっており、携帯電話部品の受注が急増したところも見られる。

地域製造業は、自動車関連、交換レンズ関連、専用機、携帯電話部品など順調な生産を続ける企業がみられるが、受注が減少した企業も多く、総体の受注は前月比横這い状況で昨年同期の水準までには回復していない模様である。

素材価格の高止まりや原油価格の高騰と受注単価の伸び悩みにあって下請企業の収益確保は厳しい状況にあり、受注動向を含め地域製造業の業況は弱含みの横這い状況となっている。

●商業

諏訪地方の12月の天候は、寒気の南下が一時的で降雪は少なく平均気温も平年より高くなったことから、防寒衣料や除雪用品などの冬物商材の動きは弱かった。

御歳暮など年末年始の贈答品は、食料品を中心に前年並みの売れ行きをみせた。

食料品は生鮮三品など総体では例年並みの売れ行きをみせたものの店舗により明暗が分かれた模様で、来店客数は伸びたものの客単価が下がっているところが多い。

ボーナス商戦では、薄型TVやデジタル家電・高級白物家電などの売れ行きは堅調であったが、ガソリン高騰等の影響から自動車販売は低調となっている。

●観光業

12月の天候は気温が平年より高く降雪量も少なかったものの、地域のスキー場の多くは例年どおり12月上旬にオープンした。スキー場への入り込み客は、施設により区々であるが総体では例年を若干下回った模様である。

上諏訪温泉の宿泊客は、前年並みのところが多いが、インターネット予約による個人客が増加している。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客数は、ホテル旅館により増加減少区々であるが宿泊付の忘年会が増加し宿泊客数が伸びたところもみられた。

諏訪大社（上社・下社）の「正月3が日」の参拝客数は350千人（上社・下社合算）で前年比7千人の減少となったが（長野県警地域課まとめ）、これは、年末年始に雪が降ったことに加え、正月連休が長期化したことにより参拝客が分散したもので、3が日以降の参拝客も加えると前年並みとなっている。

●建設業

市町村の12月の発注工事は、建築工事6件16百万円、土木工事・下水道工事39件152百万円、その他工事10件24百万円の合計55件193百万円で、前年同月比では△467百万円の減少となっている。

県関係の12月の公共工事（地元業者受注分）は20件506百万円で、平成19年4月～12月の累計契約額は5,968百万円と前年同期累計比では△267百万円と減少に転じた。

民間工事は、諏訪地方の11月の新設住宅着工件数は157戸で前年同月比37戸増加した。長野県全体での前年同期比は△25.3%で10ヶ月連続の減少となっているが、当地方では貸家の着工増加等によりプラスに転じているものの、6月の建築基準法改正に伴う建築確認申請の長期化による影響が各所にみられる。

●雇用

11月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所1.22倍、岡谷公共職業安定所1.49倍で、諏訪地域の有効求人倍率は1.31倍と全国（0.99倍）及び長野県（1.11倍）を上回っている。

諏訪職安と岡谷職安を合わせた11月の新規求人（全数）は1,275人で前月比△101人の減少、前年同月比△300人（△19.0%）減少となっている。また、新規求職者数は前年同月比△58人（△7.9%）の減少となった。

諏訪地域の有効求人倍率は、平成15年10月以降50ヶ月連続して1倍を上回っている。

業種別動向

1. 電気機械

プリント基板 コンデンサー プリンター	受注状況は企業により区々であるが、幾分弱含みの状況となっている。 自動車用コンデンサーの受注は安定している。 大型プリンターの生産は堅調に推移し、サーマルプリンター部品の受注が増加したところがみられた。
コンダクター・ リレー	受注は幾分増加傾向にあり生産は安定している。

2. 輸送用機械

自動車	受注単価は依然厳しいものの受注量は安定的に推移している。新モデル向けに受注旺盛な企業もきかれる。
ピストンリング・ シリンダーライナー 船外機	メーカーが海外生産体制を増強しているが、当面の受注は堅調となっている。 下請企業の受注量は増加しており、高水準の生産状況となっている。

3. 一般機械

工作機械 専用機・省力機器	自動車・OA機器関連の工作機械は引続き堅調な生産を続けている。 自動車関連や、プラスチックレンズカッター機など繁忙な生産を続けているところもみられるが、受注不足のところもみられる。受注単価が下がっており苦慮しているところが多い。
搬送用機械 金型	デジタル家電企業や食品関連企業向けに受注回復の動きがみられる。 自動車部品、医療機器などの受注は堅調で、金型受注が増加しているところもみられるが単型の受注は減少している。
アルミダイキャスト	受注状況は企業により区々で、取り扱い製品による繁閑の差が大きくなっている。

4. カメラ・レンズ

デジタルカメラ	全国のデジタルカメラの11月の生産台数は1,145万台で、前月比△8.3%減少、前年同月比33.1%増加となっている。11月の出荷台数は国内出荷98万台、海外出荷1,050万台で、出荷台数全体では前月比△6.2%減少、前年同月比27.4%増加となっている。(カメラ映像機器工業会) 地域のデジタル一眼レフ関連の受注は引き続き旺盛となっている。
プロジェクター レンズ	最終工程が海外に移行しており国内の部品加工は減少している。 国内の生産は縮小しており横這い状況が続いている。

5. 織 維

ニット

春物商品の最盛期を迎え繁忙となっているところもみられる。

6. 食 品

寒天

12月より今季の生産に入っており、今季の生産量は前期並みの計画となっている。寒天ブームも落ち着き天草の仕入れ価格は低下している。

味噌

出荷状況は堅調であるが、原材料の値上がりなどコスト対応に苦慮している。

7. 製 材

諏訪地方の11月の木造住宅着工件数は99戸で、前年同月比3戸増加した。全国的に住宅着工件数が減少し木材の動きが弱いなか、角材や材木の価格は大幅な値下がり傾向となっている。

8. 建 設

公共工事

12月に地元業者が受注した県関係の公共工事は、発注機関別に諏訪建設事務所11件、林道治山工事関係8件、その他1件の合計20件、契約金額506百万円となっている。平成19年4月～12月の累計契約額は5,968百万円で前年同期累計比では△267百万円と減少に転じた。市町村の12月の発注工事は、建築工事6件16百万円、土木工事・下水道工事39件152百万円、その他工事10件24百万円の合計55件193百万円で、前年同月比では△467百万円の減少となっている。災害対策工事のピークは過ぎたことから、今後は工事量の減少が見込まれている。

民間工事

諏訪地方の11月の新設住宅着工件数は157戸で、前年同期比37戸増加した。長野県全体での前年同期比は△25.3%で10ヶ月連続の減少となっているが、当地方では貸家の着工増加等によりプラスとなっている。

9. 商 業

諏訪地方の12月の天候は、寒気の南下が一時的で降雪は少なく平均気温も平年より高くなったことから、防寒衣料や除雪用品などの冬物商材の動きは弱かった。

ボーナス商戦では、薄型TVやデジタル家電・高級白物家電などの売れ行きは堅調であったが、ガソリン高騰等の影響もあり自動車販売は低調となっている。

衣料	冷え込みが弱かったことから防寒衣料の動きは弱く、また消費者が「クリスマス前後に始まるクリアランスセールを待っている」との見方もきかれた。
食料品	年末年始用の食材の売れ行きは例年並みであった。月間を通してはチラシによる比較購買により店舗間を移動する消費者が多くみられ、売上高は伸びていない模様。
家電製品	薄型TVは引続き順調な動きをみせ、灯油価格の上昇から省エネ機能の高い高付加価値エアコンの売れ行きも良かった。
自動車	諏訪・岡谷を合わせた12月の車庫証明件数（軽自動車除く）は888台で前年同月比△126台（△12.4%）の減少であり、軽自動車の販売台数は278台で前年同月比△75台（△21.2%）の減少となった。
ホームセンター	降雪が少なく例年に比べ除雪用品の動きは弱かったものの、年末の掃除用品や正月用品の売れ行きは好調であった。
デパート	婦人衣料、食品関係の売れ行きは堅調であった。

10. 観 光

12月の天候は平年より高く降雪量も少なかったものの、地域のスキー場の多くは例年どおり12月上旬にオープンした。スキー場への入り込み客は、施設により区々だが総体では例年を若干下回った模様である。飲食業では、忘年会が週末など特定の日に集中する傾向があり、対応に苦慮したとの声がきかれた。

上諏訪温泉	団体客は幾分減少したが、インターネット予約による個人客の増加により、宿泊客数は前年並みのところが多い。
蓼科・白樺湖・車山	宿泊客数はホテル旅館により増加減少区々であるが、宿泊付の忘年会で宿泊客数が伸びたところもみられた。
下諏訪温泉	宿泊客数は増加減少区々であるが、総体では前年並みとなっている。
諏訪大社	上社・下社を合わせた12月の参拝客数は29千人で、前年同月比1千人の増加となっている。また、「正月3が日」の参拝客数は350千人（上社・下社合算）で前年比7千人の減少となった。（長野県警地域課まとめ）これは、年末年始に雪が降ったことに加え、正月連休が長期化したことにより参拝客が分散したもので、3が日以降の参拝客も加えると平年並みとなっている。

トピックス

社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）のご協力をいただき、2008年の「電子工業の国内生産見通し」（2007年12月20日発表）を掲載いたしました。

－電子工業の国内生産見通し－

2007年の電子工業の国内生産総額は、20兆6,545億円（対前年比102%）と5年ぶりに20兆円を回復した2006年に引き続き、2年連続で20兆円を超える規模で推移し、2年連続プラス成長を見込んだ。2008年もプラス成長は継続し、21兆2,984億円（同103%）と3年連続プラス成長を予測した。世界でのデジタル製品の需要拡大に伴い、国内生産構成比で50%を超えている半導体・電子部品・ディスプレイデバイスの堅調な推移の寄与が大きい。

国内経済は、これまで拡大を続けてきた設備投資に一服感があるものの、輸出は増加を続けており、企業収益が高水準で推移する中、今後も緩やかに景気を持続するものと思われる。そのような中で2007年における電子工業の国内生産総額は、5年ぶりに20兆円を回復した2006年に引き続き、2年連続で20兆円を超える規模でプラスに推移するものと見込んだ。これは、主に世界的なデジタル製品の普及拡大に伴う半導体（国内生産比率77%）・電子部品（同38%）・ディスプレイデバイス（同74%）の堅調な推移によるものが大きい。中でも電子部品は対前年比106%と好調な成長を見込んだ。また、地上デジタル放送の普及による薄型テレビの国内需要に後押しされたテレビは対前年比110%と二桁成長を維持、一眼レフ式デジタルカメラなど国内需要が好調な撮像機器は対前年比107%の増加を見込んだ。

2008年の電子工業における国内生産総額は、21兆2,984億円（対前年比103%）と3年連続のプラス成長を予想した。米国サブプライムローン問題の深刻化や原油高など世界経済への懸念材料があることや、グローバル市場での低価格化等不透明感があるものの、一方では、北京オリンピック開催に伴う薄型テレビへの買替需要や、新興国の経済成長に伴うデジタル製品の拡大が期待できることから、半導体等の電子部品デバイスは前年比105%と高い成長を見込み、全体でも堅調な伸びを予想した。

電子工業全体では、日系企業の国内生産比率は46%と、海外生産へと移行が進む中、特に高度な信頼性や品質を要求される分野で高い水準を維持すると予測した。2008年の日系企業の国内生産比率の高い製品分野は、半導体（日系国内生産比率77%）、サーバ・ストレージ（同76%）、電気計測器（同72%）と予測した。